



センター内見本園のソメイヨシノと展望台から望む山々

- 挨拶 ～絆と信頼によって、花が咲き、実が結ぶ！～
- 知識の泉(森の話/木の話)
- 究める／広める／育てる(業務最前線)
- 自然彩々(センターの四季/生き物たち紹介)
- 楽／学広場(イベント・研修会)
- 職員面々(新たに配属された職員の紹介)
- 各種相談窓口の紹介



## 絆と信頼によって、花が咲き、実が結ぶ！

林業技術総合センター所長 田畑 正紀

未曾有の東日本大震災が発生してから、はや3年が経ち、本県の震災復興計画の第二期間にあたる再生期のスタートに合わせて、当センターへ着任しました。我が被災地宮城県は、復興に向けた取組が着実に進められていますが、現実に目を向ければ、今なお8万人を超す被災者の方々が仮設住宅での不自由な生活をされているほか、とりわけ沿岸域の被災地においては人口流出が続くなど、復興に一刻の猶予も許されない状況にあります。何よりも、被災者の生活再建と雇用の場の確保、被災地の産業再生、そして原発事故に伴う放射能問題の対策を最優先にして、取組を加速化していかなければなりません。

そのような中、常々思うことがあります。震災直後から国内外より沢山の支援や協力が寄せられ、これまであまり気づかなかった人と人とのつながり、「絆」が再認識され、その「絆」を深めていきました。取りも直さず私たちの仕事も、森林・林業の切り口から、生業とする人々、森林所有者、業者、自治体関係者、研究者など、様々な人々とのつながりが起点となっています。そこから、お互いの考えや意見を聞き入れ、尊重し合い、心がつながり、そして信頼関係が生まれることによって、物事が進み、課題を解決してきました。

センターにおいても、被災者の目線に立ち、一つは試験研究の側面から、森林や林産物に対する放射能が及ぼす影響の解明やその改善・制御技術の開発、本格的な復興需要に向けた被災関連企業等に対する木材性能試験等を通じた支援、県産材の建築資材としての品質・性能向上に関する研究開発、一つは林木育種事業の側面から、海岸防災林の早期復旧に向けた松くい虫抵抗性クロマツ種苗の増産と安定供給、一つは普及指導の側面から、生産者に寄り添いながら、放射能の影響による特用林産物の出荷制限解除や風評被害の払拭など生産再開に向けた指導・助言などについて、重点的に取り組んでいかなければなりません。

その取組のプロセスには、これまで培ってきた、あるいは新たな人と人とのつながりがあります。人事異動によって担当が変わろうとも、人と人とのつながり、「絆」と「信頼」関係を断ち切ることなく結び改めていくことが不可欠です。

私たちセンター職員は、「ふるさとみやぎの再生と発展」に向けて志を一つにして、職員一丸となって業務に取り組んでまいります。そこには、職員間の「絆」、県民との「絆」を大切にしながら、「信頼」関係を構築してこそ、成果が生まれ、復興を加速化させる種を育て、花を咲かせて、実を結べるものと確信しています。





## 知識の泉(森の話/木の話)

森林や木材に関するとおきの知識をわかりやすくご紹介します。

### ◎ みどりかがやく ー宮城県に自生するサクラの話ー

春から初夏にかけて、森にはすさまじいエナジーを感じます。室生犀星の「五月」は、まさに春の森のエナジーをみごとに言い表していると思います。この時期の森の植物は、開葉、開花、樹体形成へとフルパワーを発揮します。

「悲しめるもののためにみどりかがやく くるしみ生きむとするもののために ああ みどりは輝く」(室生犀星)

春は再生の季節です。生きとし生けるものが、再び活動を開始する、そういった意味合いが込められています。

春の森に入れば、つかの間の早春のみ地上に姿を現す「春植物」、森を遠くから見れば水墨画に白色か淡いピンク色で絵付けをしたようなサクラの姿が目に入ります。

さて、紙面の関係から、サクラに注目することとします。サクラの語源には諸説ありますが、有力なのは「サツキ(五月)、サナエ(早苗)」の「サ」、「イワクラ(磐座)＝神が降臨する依り代」の「クラ」を合成したもの、と言われています。これらについては、712年編纂の古事記、720年編纂の日本書紀、1798年編纂の古事記伝に説明されています。サクラは「稲に結びつく神が天から降りてきて、依り代とする植物」をいい、サクラの開花は「山の神が里に降臨して田の神となる知らせ」と記されています。

サクラは、花の付き方でサクラ亜属とウワミズザクラ亜属の2種類に区分されます。前者はウメのように一つずつ花を付け、後者は穂状に花を付けます。「お花見」しているのは、前者になります。

このサクラ亜属の野生種は日本に12種類あります。

ヤマザクラ群	ヤマザクラ, オオヤマザクラ, カスミザクラ, オオシマザクラ
ヒガンザクラ群	エドヒガン
チョウジザクラ群	チョウジザクラ, オクチョウジザクラ
マメザクラ群	マメザクラ, キンキマメザクラ, タカネザクラ
ミヤマザクラ群	ミヤマザクラ
カンヒザクラ群	カンヒザクラ

宮城県に分布しているサクラ亜属の野生種はこの表のうち、マメザクラ、キンキマメザクラ、カンヒザクラを除く9種類となっています。

日本三大桜(三春滝桜＝福島県、薄墨桜＝岐阜県、神代桜＝山梨県)や宮城県の天然記念物になっているサクラはすべてエドヒガン系です。

上の野生種の表にはソメイヨシノが載っていません。ソメイヨシノは栽培品種になっているためです。ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラを掛け合わせた雑種と言われてきましたが、最近、雑種生を覆す論文が発表されています。このような雑種を含めたいわゆる「品種」は353種類と言われていますが、これからも増えていくようです。



美しい花色のオオヤマザクラ(鬼首)



マツ類に置き換わりつつあるサクラ類(宮戸島)

【普及指導チーム 相澤 孝夫】



## 究める/広める/育てる

センター業務の柱である試験研究や普及指導、人材育成(研修)業務の最前線をご紹介します。

### ◎ 海岸防災林の盛土土壌について ～ 海岸盛土材の土壌診断 ～

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた海岸防災林の再生にあたり、盛土造成とクロマツの植栽が既に始まっています。

海岸防災林の健全な生育基盤には、成長したクロマツが十分長い垂直根を持つことが重要です。そのためにはクロマツの根が、地下水に達しない深さまで盛土をする必要がありますが、盛土の条件によってはその成長に優劣の差が生じるものと考えられています(写真—1)。

#### ○土壌環境の検証(三相組成の違い)

土壌の硬さ・強さは、根の伸長・植物の成長・降雨等に大きく影響を受けます。土壌は土壌粒子(固相)・水(液相)・空気(気相)の三相で構成され、これらの三相が全容積に対してそれぞれどのような割合で占めているか示したものを、土壌の「三相組成」といいます。

液相と気相は相反して変化し、降雨の後は液相が増え気相が減ることになります。その割合によって、土壌の性質はまったく異なるものになります。

国が今年度からクロマツを植栽する亘理町吉田地区の海岸盛土を調査した結果、盛土材は固相率が高く、それゆえ透水性や通気性が極めて悪いことがわかりました。一方、海岸砂地では、液相は低いものの気相が20%以上に保たれており、クロマツの生育環境には適していると考えられます。比較対象に当センターの苗畑土壌を分析したところ、孔隙に富んでおり、好ましい結果となりました(図—1)。

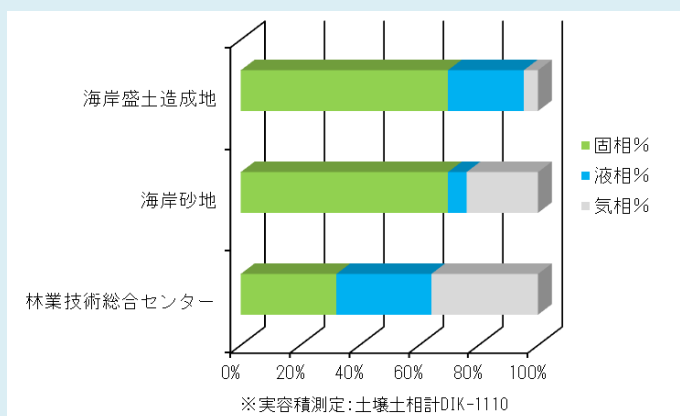
#### ○土壌環境の影響

樹木の根は呼吸をしているので、通気性が良く酸素が不足しない土壌が好ましく、根の活動を盛んにするために必要な気相率は20%以上と言われています。通気性の悪い土壌では、表層に根を広げるなど根の形態を変えることで適応を図っています。

通気性の良い土壌は、粗孔隙に富み、透水性が良く、落葉などAo層の存在が大いに役に立っていると考えられます。



写真—1 海岸盛土造成地  
(矢印:盛り土嵩上げ分)



図—1 三相組成の検証

【環境資源部 伊藤 俊一】



## ◎ 残存した海岸防災林におけるマツ材線虫病の推移

平成24年3月11日東北地方太平洋沖地震により発生した津波は、県内海岸部に存在していた広大な海岸防災林に倒木や折損といった直接的な被害を与えるだけではなく、津波に耐え生存した海岸防災林にも、土壌の塩分の蓄積や地下水水位の上昇による衰弱という形で影響を与えています。このような衰弱木には、マツ材線虫病（以下、「松くい虫」とする）の病原体であるマツノザイセンチュウを保持するマツノマダラカミキリが誘引され、これを感染源として、松くい虫被害が増加、拡大することが懸念されます。そのため、当センターでは平成24年度から、東松島市野蒜、七ヶ浜町湊浜、岩沼市川向で残存しているクロマツ林に調査区を設置し、調査区内立木の針葉変色の状況や枯損の状況、マツノザイセンチュウ及びマツノマダラカミキリの生息の有無の調査を、春と秋に行っています。

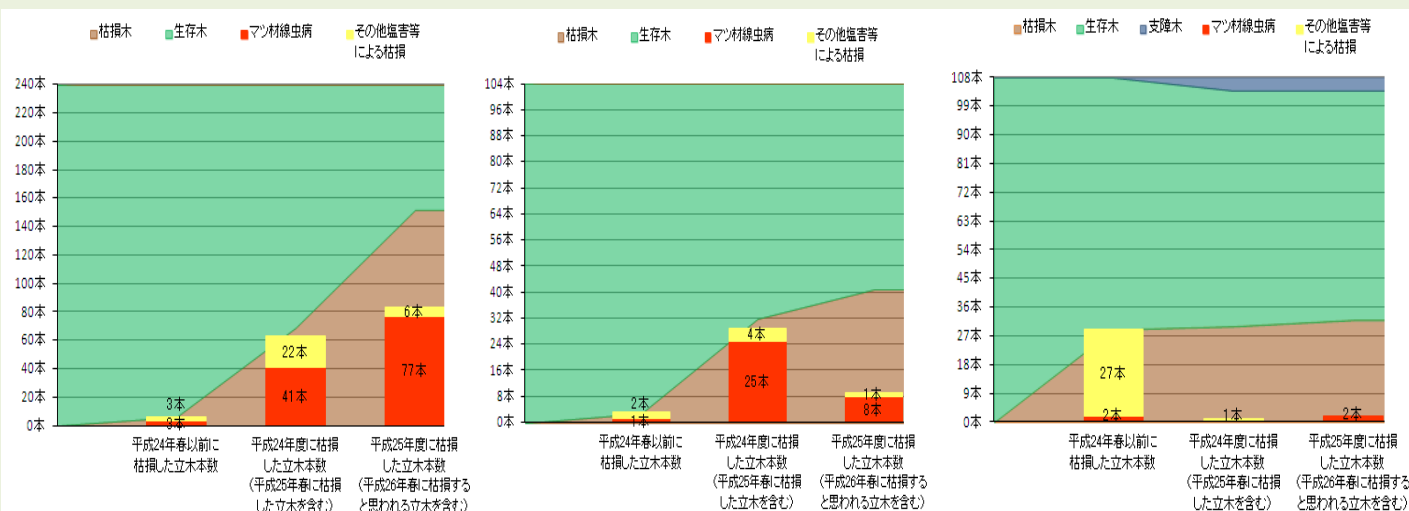
調査の結果、東松島市野蒜調査区では、平成24～25年度の2か年で、調査本数240本の約6割にあたる146本が枯損し、うち、約8割の118本が松くい虫による枯損でした（図－1）。震災後、野蒜地域周辺では、松くい虫被害が増大しているため、海岸防災林が感染源ではなく、周辺からの飛び込みが被害拡大の要因と思われます。しかし、ここまで被害が増大してしまうと、枯損木の単木的な処理によって被害を抑えるのは困難であり、新たな松くい虫の感染源となっている可能性もあることから、樹種の転換やマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツへの改植といった根本的な解決方法を検討する必要があります。

七ヶ浜町湊浜調査区では、調査本数104本の約4割にあたる38本が枯損し、うち、約9割の33本が松くい虫による枯損でした（図－2）。枯損割合及び松くい虫による枯損割合は減少しているものの、まだ調査対象木の約1割が松くい虫によって枯損している現状では、枯損木の伐倒くん蒸等、適切な処理を実施することが被害拡大防止には重要となります。

岩沼市川向調査区では、調査本数104本中3本が枯損し、うち、2本が松くい虫による枯損であり（図－3）、枯損した立木の大部分は、平成24年春以前に、塩害等その他の要因により枯損したものがほとんどでした。松くい虫による被害量が少ないため、枯損木の伐倒くん蒸等適切な処理を実施すれば、松くい虫が蔓延する可能性は低いと考えられます。

現段階の調査では、各調査区の被害の発生要因については言及できていませんが、今後も海岸防災林の再生や保全の一助となるように、調査を継続してまいります。

### ○松くい虫被害の推移



図－1 東松島市野蒜調査区

図－2 七ヶ浜町湊浜調査区

図－3 岩沼市川向調査区

【環境資源部 八木 智義】

## ◎ 平成26年度林業試験研究のあらまし

### ○ はじめに

県では、東日本大震災直後に「みやぎ森林・林業の震災復興プラン」を策定して、被害を受けた木材加工施設の復旧や海岸防災林の再生などに取り組んでおり、少しずつではありますが、関係者との協働の基に、被害の復旧及び関連産業の再生がなされつつあります。

しかし、放射能汚染の被害を受けたきのこなどの特用林産物の生産にかかる復興はまだこれからという状況です。

今年度から、林業の再生に向けた森林整備や木材供給の拡大を図る、震災復興プランの再生期がスタートします。当センターでは、復興対策を効果的・効率的に進めていくために、プランの推進に資する試験研究や技術支援に優先的に取り組むほか、復興後に必要とされる基盤的研究についても着実に継続してまいります。

### ○ 重点研究分野と主な研究課題

#### 【森林・林業・木材産業のサプライチェーンの復興に寄与する試験研究】

- 1 放射性物質対策を講じた安全で高品質なきのこの生産技術の開発および県産きのこの母菌維持管理・劣化対策に関する研究

菌床きのこ培地に海藻類や鉱物を添加することによる増収性及び放射能物質の移行低減などに対する効果を明らかにします。また、県が開発した新品種きのこの栽培技術の改良や母菌の維持管理技術を確立します。

- 2 木材への放射性物質の影響に関する調査

森林内のスギ立木における、放射性物質の葉や樹皮、木部への蓄積や移行状況などを明らかにします。

#### 【被災した海岸防災林の再生と県土保全の推進に寄与する試験研究】

- 1 クロマツ苗の無性繁殖による大量増殖技術の開発

震災により被災した海岸防災林の再生に必要な松くい虫抵抗性クロマツ苗木を大量供給するため、マツ類では困難とされてきた「さし木」による大量生産技術などを確立します。

- 2 海岸防災林の植栽技術に関する研究

今後、海岸防災林の復旧工事が大規模に進められるにあたり、強風や土壌条件など厳しい環境条件に対応したクロマツ苗の植栽技術を検証します。

- 3 海岸林造成に向けた広葉樹の育苗技術に関する研究

被災した海岸林再生の一端を担う広葉樹について、発芽性などの適性を把握するとともに、コンテナを用いた効率的な育苗技術を確立します。

#### 【木質バイオマスの多角的利用モデルの構築に寄与する試験研究】

- 1 木質バイオマスモデル地区における林地残材の利活用に向けた研究

木質バイオマスプラント稼働予定の2市1町において、地域特性を踏まえた、適切な林地残材の利用や供給システムの調査及び提案を行います。

【企画管理部 清川 雄司】



## 自然彩々

地域のオアシスでもあるセンターの四季折々の自然や、センター内に生息している野生生物たちをご紹介します。

### ◎ 初夏に咲く白い花 -エゴノキとハクウンボク-

冬の終わりから春の初めに咲く花には、ロウバイ・マンサク・サンシュユ・レンギョウなどの黄色い花が多いのですが、春とともにピンクや赤い花が増え、初夏を迎える頃には白い花が増えてきます。今回は、その中のエゴノキとハクウンボクを紹介します。

#### ○「エゴノキ」*Styrax japonica* (別名 ズサ, ジシヤ, 杉ノ木, 叅叶)

エゴノキ科エゴノキ属の落葉小高木で、高さは7～8mですが15mを越す大木になることもあります。北海道の渡島半島から南の日本各地に分布し、宮城県でも丘陵地などで普通に見られます(写真-1)。

新しい短枝から2～3cmの柄を伸ばし、その先に深く5裂した白い花1～6個を下向きにつけます。本センター付近では、5月末から6月初めに開花します。

葉は(狭長)卵形で、長さ4～8cm、幅2～4cmで互生し、柄があります。葉の裏面や若枝、冬芽には淡褐色の星状毛があります(写真-2)。

果実は長さが1cm程の卵球形で(写真-3)、8～9月に熟し表面には灰白色の星状毛が密生しています。若い果皮には有毒のエゴサポニンが含まれ、すりつぶして石鹼のかわりや、川に流して魚捕りに使われたこともありました。材は白く均一で、玩具や床柱、杖などに使われます。

枝の先に、緑白色のハスの花のようなものがつくことがあります。これは、エゴノネコシアブラムシの幼虫が冬芽に寄生してつくられた虫こぶで、7月頃になると先が開いて成虫が出てきます(写真-4)。



写真-1 エゴノキと花



写真-2 星状毛



写真-3 果実



写真-4 エゴノネコシアブラムシの虫こぶ



写真-5 ハクウンボク



写真6 ハクウンボクの花

#### ○「ハクウンボク」*Styrax obassia* (別名 材バヂシヤ)

同じエゴノキ属の落葉小高木で、高さは7～15mになります。エゴノキよりやや北部の北海道の中央部まで分布し、宮城県では丘陵地から山地に見られます。和名は白雲木で、群がって咲く白い花を“白雲”に見立てたものです(写真-5)。

6月上旬に、枝先から長さが10～20cmの総状花序にエゴノキに似た白い花を多数つけますが、柄は1cmほどです(写真-6)。

葉は短い柄があり互生しますが、エゴノキとは異なり先端が尾状に尖った円形又は卵円形、倒卵円形をし、長さは10～20cm、幅も6～20cmになります。葉の裏面や若枝には、星状毛が密生しています。

果実はエゴノキよりやや大きい1.5cm程の卵球形で、星状毛を密生しています。

材が緻密で弾力があることから器具材やろくろ細工に使われるほか、公園木や街路樹として各地に植栽されています。

【環境資源部 梅田 久男】

#### 参考文献

山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花 合弁花他, 山と溪谷社, 2001  
自然百科シリーズ 10 宮城の樹木, 河北新報社, 199



## ◎ 土を掘るのが得意な動物「アナグマ」

センター内には、様々な動物たちが生活しています。

カモシカ、クマなどの中大型動物のほかに、敷地内の近くでよく見かけるのは、これより小型動物が多いようです。一般に、小動物には、アライグマ、ハクビシンと言った外来種（海外などから来た動物）、それにタヌキ、アナグマと言った在来種（従来からいる動物）などが一般的です。

在来種のアナグマは、ちょっと見の毛色や顔の様子がタヌキに似ていますが、分類学上ではイタチ科で、タヌキはイヌ科です。ニホンアナグマが正式な和名で、別名ムジナとも呼ばれているようです。日本各地に生息し、他の呼名もあるかもしれません。

アナグマは、強力な爪をそなえた前足で穴を掘るのが得意で、巣穴も自ら掘り抜いていきます。

「同じ穴のムジナ」というのは、狸は穴が掘れないので、貉（ムジナ）の掘った穴と一緒に棲むということわざですが、そこでタヌキと同居することはなさそうで、ことわざどおりにはいかないようです。



センターで見かけたアナグマ（幼獣）

《 野生動物の多くは、それを許可なく捕獲したり飼育することが法律で禁止されています 》

「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」等々により、野生動物の多くは、許可なく捕獲したり飼育することが、禁止されています。（関係各法については、環境省のHPをご覧ください）

【環境資源部 伊藤 俊一】



## 楽/学広場

センター主催の各種イベントや研修会の開催結果、今後の開催予定などをご紹介します。

### ◎ 今年度の各種イベントの開催予定について

当センターでは県民の皆様に森林・林業についてより身近に感じ、理解を深めていただけるよう、毎年関係団体等と連携しながら各種イベントを開催しております。

例年夏、秋にそれぞれ開催しておりますが、詳しい日時については、県政だよりや新聞・ラジオ等を通じてお知らせいたします。どちらのイベントも参加費はかかりません。是非お気軽にご参加下さい。

#### ◎夏のイベント（親子森林教室）

毎年夏休みが始まった7月末頃に、親子でご参加いただける森林教室を開催しています。本棚や踏み台、鳥の巣箱など、作りたい作品を選んで製作できる木工教室、樹木の名前を覚えられる自然観察など、夏休みの思い出作りや自由研究にも最適なメニューを用意しております。



木工教室

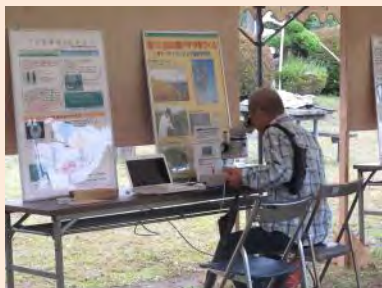


樹木観察

#### ◎ 秋のイベント（施設の一般公開）

樹木が実りの秋を迎える頃、林業技術総合センターの施設を一般公開しています。当日は日ごろの研究の成果をご紹介しますほか、多種の試験機器がそろったきのこ・木材の各実験棟等もご覧になれます。

研究施設の他、当センターの樹木見本園や展示林に植栽された様々な木々や自然の植物を観察し、森林浴を楽しむこともできます。お子様だけでなく大人も楽しめるネイチャークラフトも人気です。



試験研究成果の紹介



実験施設の公開



ネイチャークラフト

【企画管理部 大内 環】



## ◎ 平成 26 年度人材育成研修等の概略について

既に皆さんご承知のように、国の「森林・林業再生プラン」では「路網整備」、「施業集約化」、「人材育成」を三本の矢として掲げていますが、これを実行あるものとするためには、「人材育成」こそが再生へのカギとなっています。

県としましては、国の施策とも呼応しながら、「みやぎ森林・林業の将来ビジョン」及び「みやぎ森林・林業の震災復興プラン」に掲げた諸目標の実現に向け、積極的に活動を展開していくものとしており、森林所有者や市町村等からの多様な要請に応えることとしております。特に、当センターでは、森林・林業・木材産業で活躍する人材の確保・育成を図るため、センター独自の各種研修の開催や関係機関が開催する研修等の支援を行っています。

昨年度は、約 100 名の方々がセンター開催の研修等を熱心に受講され、習得した様々な知識や技術・技能を各地域で発揮し、大いに活躍しています。本年度も多くの受講生が集まり、林業の再生に向けた構想の実現に向け、関係機関と連携しながら人材育成に努めて参ります。

本年度の研修体系は、以下の表のとおりです。

研修の名称		目的	対象者	定員	スケジュール	募集期限等	
センター主催研修	林業技能者等を育成する研修	トータル・コーディネーター育成研修	森林整備の促進と効率的な木材生産を総合的にコーディネートできる人材の育成	林業事業体中堅職員	20名	6月中旬～1月中旬(12日間)	6月上旬
		宮城県森林施業プランナー育成研修	集約化施業を実践する高度の技能を有する地域リーダーの育成	上記研修認定者、間伐担当者等	20名	6月下旬～1月下旬(各2日)	5月下旬
	林業後継者等を育成する研修	林業教室	森林・林業に関する総合的な知識・技術の習得を図り地域の指導的な人材を育成	林業後継者等	10名	5月中旬～10月上旬(10日間)	4月下旬
		市町村林務担当職員研修	森林・林業に関する基礎知識を醸成し、円滑な森林・林業行政の推進	新規林務担当市町村職員	10名	6月中旬(2日間)	6月上旬
		里山林の管理基礎講座	森林整備に関するボランティア活動を行うための基礎知識と技能の習得	一般県民	15名	10月上旬～11月下旬(4日間)	9月上旬
依頼研修	林業就業希望者等を育成する研修	◇林業就業・雇用講習 ◇林業就業支援講習 ◇緑の雇用「フォレストワーカー」育成研修 ◇森林作業道開設オペレーター育成研修 ◇林業技術講習会	・林業就業希望者、林業技術者 ・林業事業体現場技術者 ・林業研究グループ会員 ※宮城県林業労働力確保支援センター外				



トータル・コーディネーター育成研修  
【プロット調査結果のコスト分析】



林業教室  
【プレカット工場等現地視察】



林業就業支援講習  
【林内作業車使用安全教育】

【普及指導チーム 伊勢 信介】



## 職員面々 平成 26 年度からセンターに配属された職員を紹介します。



【総務 蜂谷 秀明】

公立大学法人宮城大学から参りました。11年前に旧石巻産業振興事務所に勤務していましたので、予算経理の関係で林業とは関わりがありました。明るく風通しの良い職場環境づくりに務めて参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



【企画管理部 清川 雄司】

2度目のセンター勤務となります。今回は研究員の立場でしたが、今回はセンターの業務や試験研究にかかる多方面との調整が主な仕事となります。関係者の皆様との情報交換を大切にしたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



【環境資源部 菅野 昭】

林業試験場の時代を含めて、4回目の林業技術総合センター勤務となりました。今回は、初めての環境資源部です。低コスト造林や木質バイオマス等の森林資源の有効活用のほか、松くい虫被害対策やナラ枯れ対策などに加え、ニホンジカなどの大型野生動物による森林被害対策等、幅広い分野を担当する部です。これらの試験研究を通して、震災からの復旧・復興に少しでも貢献できるよう全力を尽くしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【普及指導チーム 相澤 孝夫】

4月に普及指導チームに配属となってから、時間に追われる日々を過ごしています。林業試験場時代から通算して3回目の勤務になります。研究成果の普及や普及指導職員の研修、普及総括などを担当します。史上最小の普及職員数で最大の効果を求めつつ、震災からの再生へと歩を進め、来年の今頃までには、定時退庁などを会得したいものです。よろしくお願ひします。



【普及指導チーム 佐々木 幸敏】

今年、3月31日をもちまして宮城県を退職しました。皆様には大変お世話になりました。誠にありがとうございます。

4月1日からは、宮城県から再任用され普及指導チームで林業後継者等を担当することになりました。新たな気持ちで仕事を行って参りますので、今後ともよろしくお願ひします。



【総務 佐々木 典子】

仙台地方振興事務所水産漁港部から参りました。センターは環境も良く職員のみなさんもとても優しい方々で、毎日楽しく仕事をさせていただいております。みなさんが仕事をスムーズに進められるようサポートしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



【総務 千葉 優真】

今年から職員に採用され、センターに配属された千葉といいます。事務担当ですが、まだできることはあまりないので雑務をこなす日々です。今後も皆様にはご迷惑をおかけしていくことになると思いますが、早く自分の仕事をしっかりこなせるようがんばってまいります。よろしくお願ひします。





## 各種相談窓口の紹介

林業技術総合センターでは、林木の育種改良や森林の病虫獣害、木材やきのこといった、森林・林業に関する様々なテーマについて試験研究を行うとともに、試験研究成果の普及、林業技術者の育成等の業務に取り組んでおります。

試験研究成果や林業技術に関する情報だけでなく、イベント・研修のご案内からご自宅の庭木の手入れについてまで、各種相談も随時受け付けております。

相談の際は、以下の窓口をご参照の上、林業技術総合センター（電話：022-345-2816）までご連絡下さい。

※ 一度代表につながりますので、相談内容（担当者）をお知らせ下さい。

相談内容	詳細	担当部	担当者
林業技術の普及	林業技術の普及・後継者の育成について 試験研究成果の普及・技術支援について 林業技術の情報収集と提供について	普及指導チーム	チーム員
森林・林業研修	トータルコーディネーター育成研修について 宮城県森林施業プランナー育成研修について 林業教室について 里山林の管理基礎講座について その他各種研修について		相澤 伊勢 佐々木(幸) 佐々木(幸) チーム員
育種・育苗技術	林木の品種改良について (マツノゲンチュウ抵抗性クマツ, 低・少・無花粉スギ等) 採種園・採穂園の改良について 有用広葉樹の種苗等について 育苗技術の改良について		企画管理部
林業種苗	林業種苗の生産について	佐藤	
圃場管理	圃場・樹木見本園等の管理について 生産物の管理・販売について	佐藤	
イベント等	夏休み親子木工教室・施設の一般公開等の開催について 視察見学・インターンシップ等の受け入れについて	大内	
育林技術	育林技術の改良, 森林施業について 林業経営の改善について 林業機械に関する試験研究について	環境資源部	伊藤
森林保護	森林・樹木の病虫害, 獣害, 森林災害について 森林の環境保全機能について		八木
木質バイオマス	木質バイオマス資源の有効活用等について		伊藤
木材利用	木材の利用や加工技術について 木材受託試験について 木材への放射性物質の影響について	地域支援部	皆川・玉川 皆川・玉川 玉川
きのこ・ 特用林産物	みやぎのきのこ (ハタケシメジ等) について 特用林産物について きのこ・山菜類への放射性物質の影響について		今埜 今埜・渡邊 今埜・渡邊

### 宮城県林業技術総合センター

〒981-3602

黒川郡大衡村大衡字はぬ木 14

TEL022-345-2816 FAX022-345-5377

<http://www.pref.miyagi.jp/stsc/>



メッサ(METSÄ)とは・・・

森をこよなく愛するフィンランド人の言葉で「森, 木」を意味します。